

東京都中小企業収益動向調査

－平成28年度の収益動向と平成29年度の収益見通し－

《 概要 》

○平成28年度の「増収企業」は42.5%でほぼ横ばい

平成28年度の売上高の状況は、前年度（平成27年度）と比べ、増加した企業（増収企業）が42.5%、減少した企業（減収企業）が57.5%となり、前回調査からほぼ横ばいで推移した。

○平成28年度の「増益企業」は24.5%、「減益企業」は42.0%

平成28年度の経常利益の状況は、前年度と比べ、増加した企業（増益企業）が24.5%、減少した企業（減益企業）が42.0%となった。前回調査と比べ、増益企業は横ばい、減益企業はわずかに減少となり、経常利益の状況はやや改善した。

○平成28年度の経常利益増減の主な要因は「販売数量」が最多

平成28年度の経常利益増減の主な要因は、増益企業、減益企業ともに「販売数量」が最も高い。前回調査と比べ、増益企業では「販売数量」の割合が4.7ポイント増加し、「販売単価」や「人件費」などが減少した。

○平成28年度の採算状況は黒字企業が41.3%、引き続き赤字企業を上回る

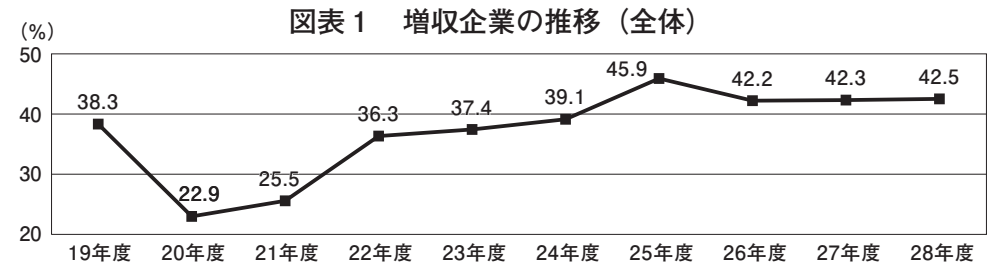
平成28年度の採算状況は、「黒字」が41.3%、「赤字」が30.0%となった。8年連続で赤字企業が減少し、前回調査に引き続き黒字企業が赤字企業を上回った。

○平成29年度の収益見通しは「好転」が16.5%、「悪化」が31.7%

平成29年度の収益見通しは、「好転」が16.5%、「悪化」が31.7%で、依然として「悪化」が「好転」を上回っている。

1 平成28年度の売上高の状況

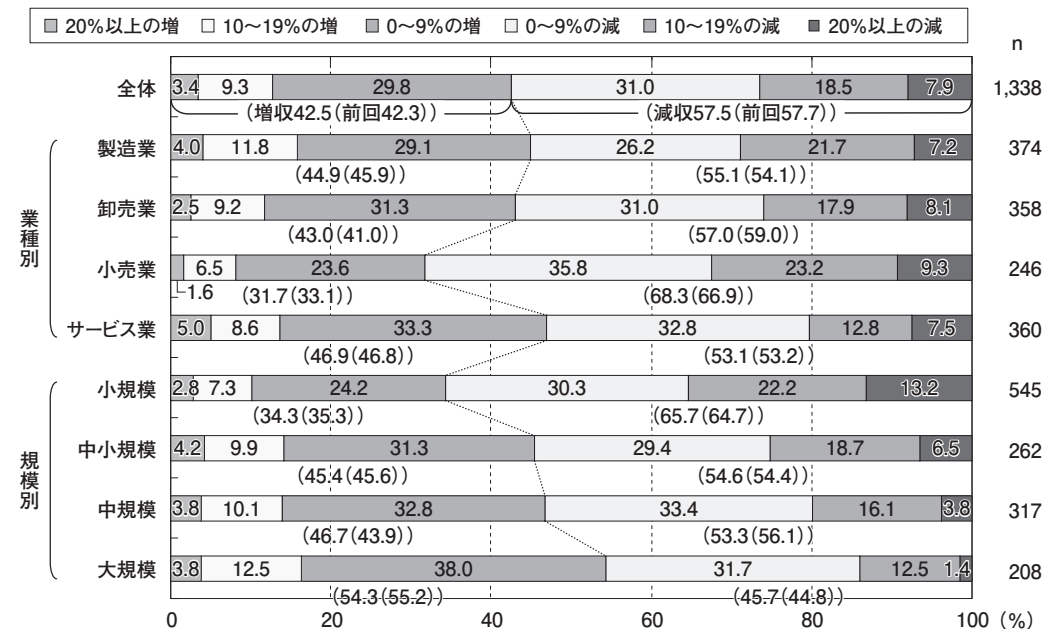
平成28年度の売上高の状況は、前年度（平成27年度）と比べ、増加した企業（以下「増収企業」という。）が42.5%、減少した企業（以下「減収企業」という。）が57.5%となり、前回調査からほぼ横ばいで推移した。



業種別にみると、増収企業は卸売業43.0%（前回調査41.0%）が2.0ポイントとわずかに増加、サービス業46.9%（同46.8%）はほぼ横ばいとなった。

規模別にみると、中規模46.7%（同43.9%）のみ増収企業が増加した。大規模54.3%（同55.2%）では増収企業が0.9ポイント減少したものの、唯一、増収企業が減収企業を上回っている。

図表2 平成28年度の売上高の状況（業種別・規模別）

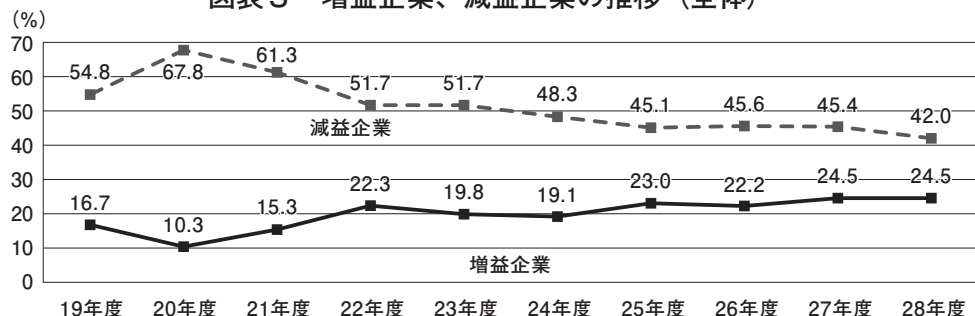


注) カッコ内は増収・減収の合計及び前回28年9月調査の数値（四捨五入により内訳の計と一致しない場合がある）。無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。

2 平成28年度の経常利益の状況

平成28年度の経常利益の状況は、前年度と比べ、増加した企業（以下「増益企業」という。）が24.5%、減少した企業（以下「減益企業」という。）が42.0%となった。前回調査と比べ、増益企業は横ばい、減益企業はわずかに減少となり、経常利益の状況はやや改善した。

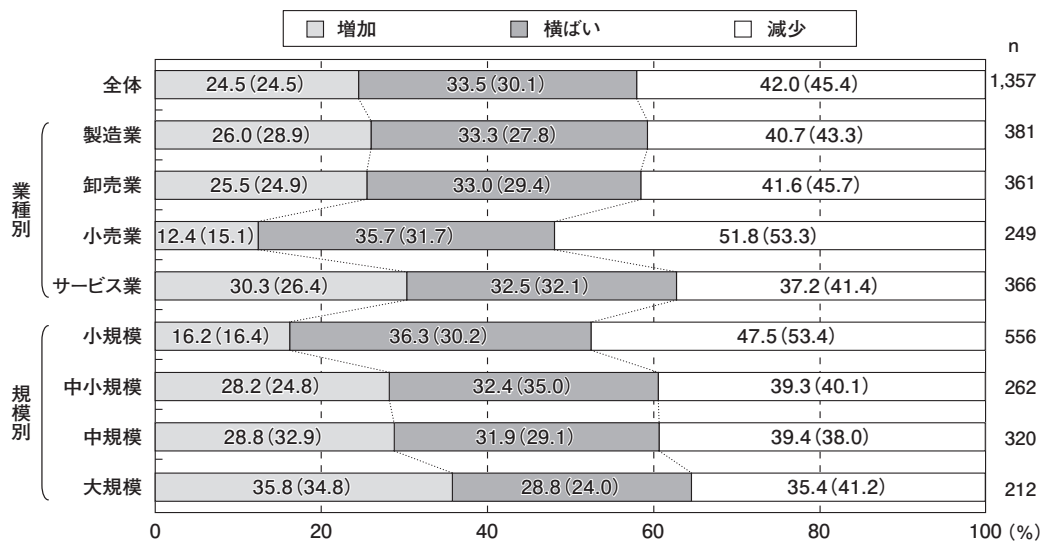
図表3 増益企業、減益企業の推移（全体）



業種別にみると、全業種で減益企業の割合が減少した。サービス業では増益企業が増加し、前回調査と比べ経常利益の状況はやや改善した。一方、小売業では増益企業が減少、減益企業が半数を超えており、厳しい状況である。

規模別にみると、規模が大きくなるほど増益企業が増加しており、大規模のみ増益企業が3割を超えている。

図表4 平成28年度の経常利益の状況（業種別・規模別）

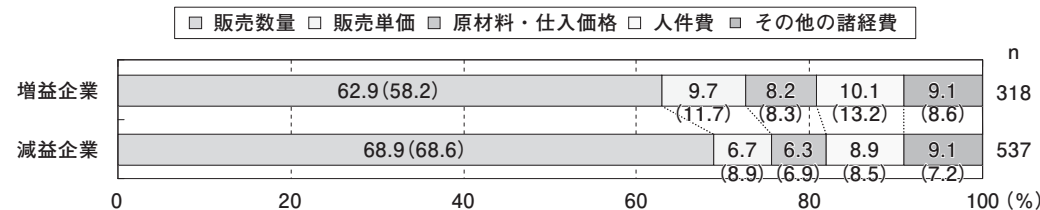


注) カッコ内は、前回28年9月調査。無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。

3 経常利益増減の主な要因

平成28年度の経常利益増減の主な要因は、増益企業、減益企業ともに「販売数量」が最も高く、販売数量の増減が収益状況の明暗を分けているとみられる。前回調査と比べ、増益企業では「販売数量」の割合が4.7ポイント増加し、「販売単価」や「人件費」などが減少した。減益企業では「販売数量」の割合はほぼ横ばいとなった。

図表5 増益、減益企業別の経常利益増減の主な要因

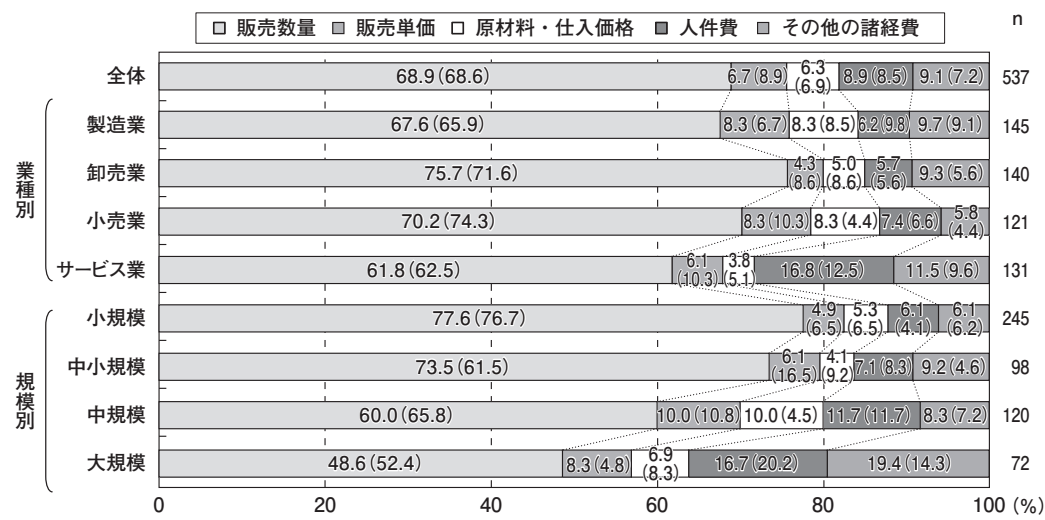


注) カッコ内は前回28年9月調査。無回答を除き集計。

減益企業における経常利益減少の主な要因を業種別にみると、すべての業種で「販売数量」が最も高くなっている。サービス業では「人件費」が16.8%（前回調査12.5%）と4.3ポイント増加し、他の業種と比べて高くなっている。

規模別にみると、規模が小さくなるほど「販売数量」の割合が高くなり、小規模では77.6%（同76.7%）を占めた。大規模では人件費16.7%（同20.2%）や「販売単価」8.3%（同4.8%）など、「販売数量」以外の要因が約半数を占めている。

図表6 経常利益減少の主な要因（業種別・規模別）

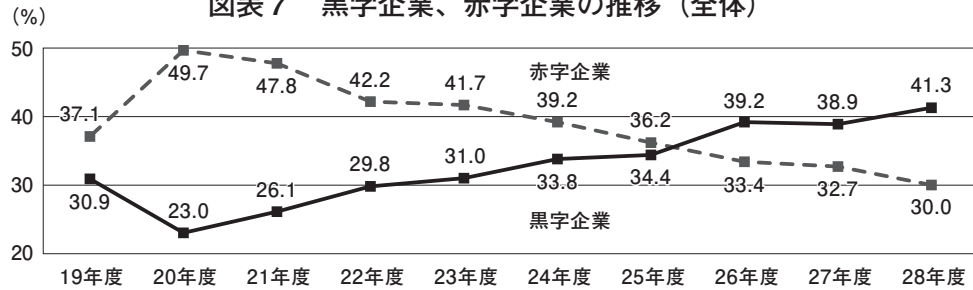


注) カッコ内は、前回28年9月調査。無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。

4 平成28年度の採算状況

平成28年度の採算状況は、「黒字」が41.3%、「収支均衡」が28.7%、「赤字」が30.0%となった。8年連続で赤字企業が減少し、前回調査に引き続き黒字企業が赤字企業を上回った。

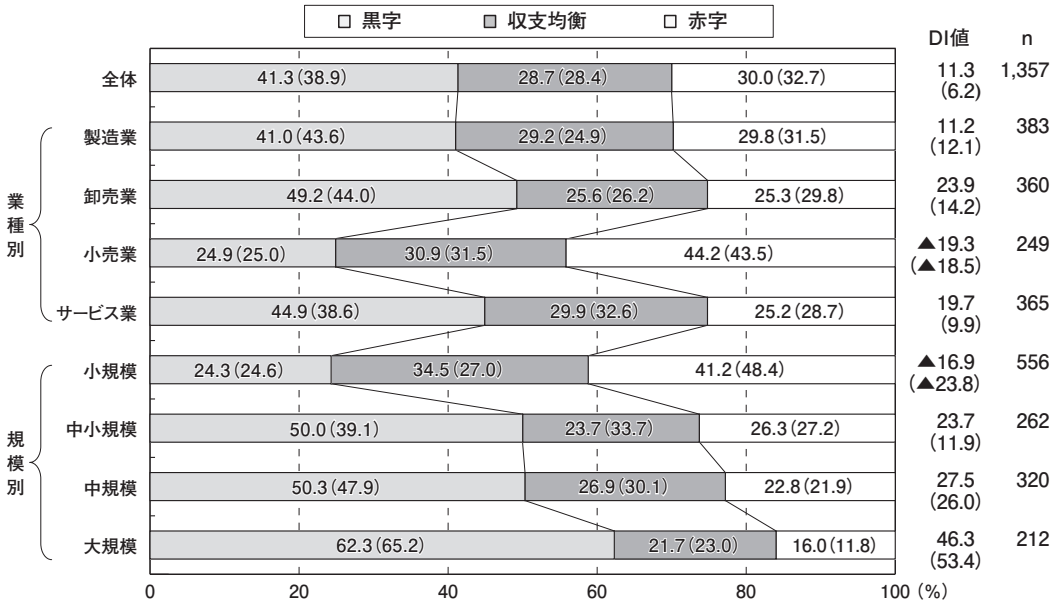
図表7 黒字企業、赤字企業の推移 (全体)



業種別に採算状況をDI値(黒字企業-赤字企業)でみると、サービス業19.7(前回調査9.9)は9.8ポイント、卸売業23.9(同14.2)は9.7ポイントと、ともに大幅に増加した。製造業11.2(同12.1)は0.9ポイントとわずかに減少したが、プラス水準を維持した。一方、小売業▲19.3(同▲18.5)は0.8ポイントとわずかに減少、前回調査に引き続きマイナス水準となった。

規模別にみると、大規模を除くすべての規模で上昇した。中小規模23.7(同11.9)は11.8ポイントと大幅に上昇した。小規模▲16.9(同▲23.8)はマイナス水準ながら6.9ポイントの改善となった。

図表8 平成28年度の採算状況 (業種別・規模別)

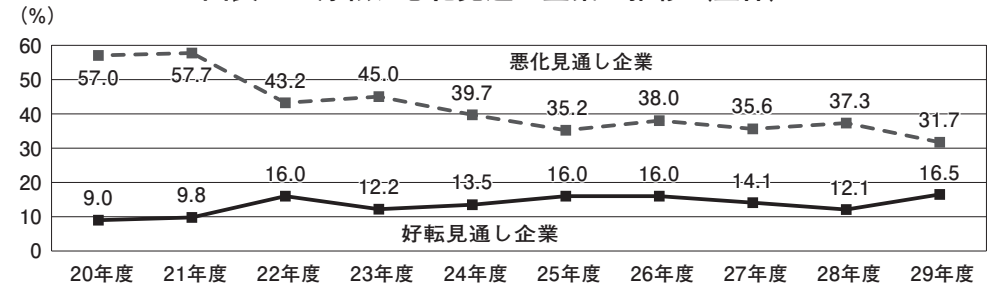


注) カッコ内は、前回28年9月調査。無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。

5 平成29年度の収益見通し

平成29年度の収益見通しは、「好転」が16.5%、「悪化」が31.7%で、依然として「悪化」が「好転」を上回っている。また、「不変」が51.8%と約半数を占めた。前回調査と比べ、「好転」がやや増加、「悪化」がわずかに減少となり、見通しは改善しつつある。

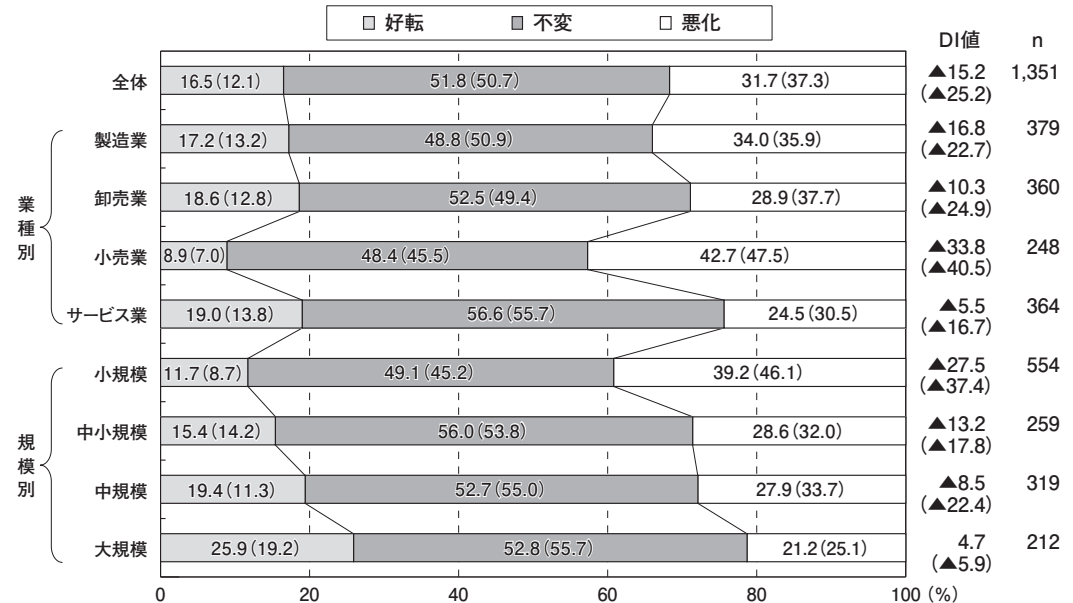
図表9 好転、悪化見通し企業の推移 (全体)



業種別に収益見通しをDI値(好転見通し企業-悪化見通し企業)でみると、全業種で上昇し、見通しが改善した。

規模別にみても、すべての規模で上昇した。なかでも中規模▲8.5(前回調査▲22.4)は13.9ポイントと大きく上昇した。また、大規模4.7(同▲5.9)は10.6ポイント上昇し、唯一、プラス水準に転じた。

図表10 平成29年度の収益見通し (業種別・規模別)



注) カッコ内は、前回28年9月調査。無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。